

Introduction

The British Broadcasting Corporation (BBC) is internationally famous for the quality and impartiality of its news items. BBC reporters also strive to make the news both interesting and as easy to understand as possible. In this book we have chosen 15 items that we think would be of particular interest, and therefore motivating. They are mainly about Britain, as you might expect, and learners will gain an insight into the life and culture of that country. However, many of the issues covered, such as health, education, and the environment, are also important in Japan, so there is the opportunity to discuss and compare the two countries.

There were two issues in particular which dominated the British scene in 2020 and 2021. Firstly, of course, there is the coronavirus pandemic, still a serious problem at the time of this issue going to print. Two of the units examine the effects of the lockdowns on education and careers, and it should also be noted that most of the videos in this issue were made under coronavirus distance limitations. Secondly, at the end of January 2021, Britain officially left the EU. We have been able to include one unit about the initial effects this has had on our trade with Europe, but we do not know yet what the full effects will be. These will certainly be covered in our next issue.

As ever, new items of vocabulary are explained, and the notes (in Japanese) will explain any interesting points of grammar and usage of English. However the most important purpose of this book is that the learners should be able to engage in the subject matter, research, and then discuss together. With this in mind, we have developed discussion questions that would encourage them to relate these new discoveries with what is already familiar to them.

The videos are easily accessible online. This will make it easy for students to study by themselves out of class.

We hope you enjoy the book and the videos.

はじめに

本書は、実際に放送されたBBC（英国放送協会）のニュースを教材として、ニュースキャスターや街頭インタビューを受ける **native speaker** が自然に話す英語に触れることで、学習者のリスニング力や語彙力といった英語力を伸ばすことを目的としています。同時に、イギリスや世界で起こっている出来事やその背景となる社会や文化についても学べるように工夫されています。

扱うトピックは、政治、経済、環境などから、昨今世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス関連まで多岐にわたるものとし、できるだけ **up to date** でありつつも普遍的なものを選びました。学習する皆様の興味関心の幅を広げ、ご希望にお応えすることができれば幸いです。

前作に引き続き、ユニット内のコラムは、イギリス文化についての興味深い情報を増やして充実を図り、**Questions** も最初の **Setting the Scene** に始まり **Follow Up** にいたるまで、各ユニットで取り上げるニュースを順序良く掘り下げて理解が深まるように配慮しました。

本書を通じて、伝統と革新が共存する多民族国家イギリスが、4つの地域の独自性を保ちつつ、総体としてのイギリスらしさ（“**Britishness**”）を模索する今の姿を見ていただけたらと思います。現在のイギリスは、EUからの離脱やスコットランドの独立問題に加え、新型コロナウイルスによる混乱の渦中にあり、日本や世界に与える影響を考慮すると、今後もその動きから目が離せません。

このテキストを使って学習する皆様が、イギリスや世界の状況に興味を持ち、さらには、自分から英語ニュースに触れたり、英語で意見を述べたりと、ますます学習の場が広がっていきますことを、執筆者一同願っております。

最後になりましたが、本書の作成にあたり、BBCニュースを教材として使うことを許可してくださいましたBBC、編集に際してご尽力いただきました金星堂の長島吉成様とシー・レップスの佐伯亜希様に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

テキストの特徴

普段の生活の中で、ニュースの英語に触れる機会はあまりないかもしれません。本テキストは、初めて英語でニュースを観る場合でも無理なく取り組めるよう、多種多様なアクティビティを用意しています。単語のチェックや内容確認、穴埋め、要約、ディスカッションを通して、段階を踏みながらニュースを理解できるような作りになっているので、達成感を感じることができるでしょう。

Starting Off

1. Setting the Scene

実際にニュースを観る前に、ニュースで扱われるトピックについて考えるためのセクションです。トピックについての学習を始めるにあたり、身近な問題としてトピックを捉えられるような問題を用意しました。ここで先にニュースに関する情報を整理しておけば、実際にニュースを観る際に理解が容易になります。ニュースで使われている単語や語句、または重要な概念をここで予習しておきましょう。

2. Building Language

ニュースの中で使われる重要単語を学びます。単に日本語の訳語を覚えるのではなく、英語での定義を通して、また同義語を覚えながら、単語の持つ意味を英語で理解することを目指します。また、これらの単語はディスカッションを行うときにもおそらく頻繁に使うことになる単語ですし、ニュースの核となる単語ですので、発音もしっかりと確認することが重要です。

Watching the News

3. Understanding Check 1

実際にニュースの中身を詳しく見ていく前に、どんな意見が交わされているのかを確認します。ここで具体的にニュースのイメージをつかむことが大事です。全体像を簡単にでも把握することで、ニュース理解の大きな助けとなります。

4. Understanding Check 2

ニュースに関する問題を解くことで、どれだけニュースを理解できたか確認することができます。間違えた箇所に関しては、なぜ間違えたのかをしっかりと分析し、内容を正確に把握しましょう。**Filling Gaps**のアクティビティを行ってから**Understanding Check 2**に取り組むのも効果的かもしれません。

5. Filling Gaps

ニュースの中で重要な意味を持つ単語を聞き取ります。何度も繰り返し聞き、正しい発音を意識します。それと同時に、単語を正しく書き取ることで、耳と手との両方の動きを通して重要単語を習得することを目指します。もし時間に余裕があれば、穴埋めの単語を実際に発音し、耳と手に加え口も使って覚えると効果的です。

Moving On

6. Making a Summary

この箇所は、これまで観てきたニュースをまとめる部分でもあり、かつ **Follow Up** に至る前の準備の段階でもあります。しっかりと内容を理解しているか、このアクティビティを通して確認しましょう。また、**Building Language** で出てきた単語を再度使っているため、単語の習熟の確認ができるようになっています。

7. Follow Up

ニュースと関連したトピックをいくつか挙げてあります。ニュースで得た知識、また単語を活かして話し合いを行うためのセクションです。トピックには、その場で話し合えるものと各自調べてから発表し合うもの、両方が含まれています。そのニュースに関してだけでなく、今後似たような話題に接したときにも意見を述べることができるよう、このアクティビティで仕上げを行います。

Background Information

ニュースでは、必ずしもすべての事柄が説明されているとは限りません。ニュースの核となる事柄で、かつニュースの中ではあまり詳しく説明されていないことに関して、このセクションでは補足しています。ニュースをより深く理解するのにも役立ちますし、**Follow Up** での話し合いの際にも使えるかもしれません。

Behind the Scenes

ニュースに関連することではありますが、**Background Information** とは異なりここではニュースの核となることではなく、話題が広がる知識、教養が深まる知識を取り上げました。肩の力を抜き、楽しんで読めるような内容になっています。

- ・ 各ユニットで取り上げたニュース映像はオンラインで視聴することができます。詳しくは巻末を参照ください。
- ・ テキスト準拠の Audio CD には、各ユニットのニュース音声と、ニュースを学習用に聞き取りやすく吹き替えた音声、**Making a Summary** を収録しています。



Contents

Unit 1	An Award for an Unsung Hero 1
	トライアスロンの伝道師 [2分26秒]
Unit 2	Treasures of the Society of Antiquaries 7
	家賃の値上げで骨董品が危機に？ [2分25秒]
Unit 3	Changing Careers in the Pandemic 13
	パンデミックが若者の働き方にもたらした変化 [3分8秒]
Unit 4	The Climate Change Threat to Heritage Sites 19
	気候変動で墓地が廃墟に？ [2分54秒]
Unit 5	Plastic from Peas 25
	エンドウマメ・プラスチック [2分58秒]
Unit 6	Return of the Red Kites 31
	鳥と人間の共存を目指して [3分1秒]
Unit 7	All Cars to Be Electric 37
	ガソリン車が博物館に展示される未来 [3分0秒]





Unit 8 Mend More and Buy Less: London Repair Shops 43

使い捨てのない社会を目指して [2分49秒]

Unit 9 Swimming to Cure Dementia 49

寒中水泳は長寿の秘訣？ [2分38秒]

Unit 10 A Special Pop-up Shop on Carnaby Street 55

ロンドン最先端エリアに黒人によるファッションブランドが登場 [2分18秒]

Unit 11 School Laptops for All 61

コロナ禍の教育格差に歯止めを！ [2分47秒]

Unit 12 A New Nuclear Power Station 67

原子力発電の未来はどうか？ [4分13秒]

Unit 13 Meat Grown in the Laboratory 73

シンガポールで培養肉はいかが？ [2分35秒]

Unit 14 Cardiff, the First Carbon Neutral City in Wales 79

カーディフの脱炭素への挑戦 [2分59秒]

Unit 15 Brexit Problems at the Border 85

離脱後の対EU貿易のいま [3分24秒]



An Award for an Unsung Hero

新型コロナウイルスのパンデミックという苦境の中、人々のために働いてきたスポーツのコーチが、ある賞を受賞しました。どのようなもののでしょうか。ニュースを見てみましょう。



Starting Off

1 Setting the Scene

▶ What do you think?

1. What is your favourite sport or exercise?
2. Can you remember a person who introduced you to sport, or think of someone who encouraged you?
3. Have you ever thought of doing a triathlon (running, swimming and cycling)? Why do you think so many people like to do it?

2 Building Language

▶ Which word (1-6) best fits which explanation (a-f)?

- | | | |
|-------------|-----|---|
| 1. qualify | [] | a. pass a test or show that you have the skills necessary for a job or position |
| 2. inspire | [] | b. succeed in reaching a target or goal |
| 3. monetise | [] | c. encourage or give hope to somebody |
| 4. remotely | [] | d. make money from an idea |
| 5. achieve | [] | e. from a distance |
| 6. unsung | [] | f. not publicly praised or rewarded |

Watching the News

3 Understanding Check 1

► Read the quotes, then watch the news and match them to the right people.

1. ... whereas my reward isn't money. []
2. Audrey thoroughly deserves this award. []
3. ... over an audio link, and gives you instructions over headphones. []
4. ... one woman from the capital who's worked tirelessly to encourage more people ... []



4 Understanding Check 2

► Which is the best answer?

1. What did Audrey Livingston do in her forties?
 - a. She gave up her job as a coach.
 - b. She found an advertising job.
 - c. She qualified as a driver.
 - d. She started doing triathlons.
2. Why does Audrey prefer being a coach to being in advertising sales?
 - a. In advertising, her only reward was money, but as a coach, people tell her how they feel.
 - b. She earns more money as a coach than she did in advertising sales.
 - c. She gets a bonus at the end of the month, but in advertising she didn't.
 - d. She has lost a lot of weight since becoming a coach.
3. Which of the following sentences is correct?
 - a. Audrey had never heard of the Unsung Hero Award.
 - b. Audrey already knew that she had won the Unsung Hero Award.
 - c. Audrey knew about the Unsung Hero Award, but didn't know that she had won.
 - d. Audrey was surprised that she hadn't won the Unsung Hero Award.

▶ What do you remember?

4. What is the purpose of Soul Swimmers?

5. What was Audrey's brilliant idea, according to the man?

6. Why did the woman from South London think Audrey deserved the award?

BACKGROUND INFORMATION

「BBCスポーツ・パーソナリティ・オブ・ザ・イヤー (BBC Sports Personality of the Year)」は毎年12月に授与される賞です。メインである「BBCスポーツ・パーソナリティ・オブ・ザ・イヤー賞」にはスポーツで活躍した個人が選ばれ、2020年はF1レーサーのルイス・ハミルトン (Lewis Hamilton, 1985-) が2014年に続き2度目の受賞を果たしました。1954年の開始当初、賞は1つだけでしたが、徐々に他の賞が加えられ、現在は様々な賞があります。「BBCスポーツ・名もなき英雄賞」は2003年に始められた賞で、人々のスポーツへの参加をボランティアで手助けしながらも、その功績がまだ知られていない人物に与えられます。BBCの15の地方局がそれぞれ1人ずつ受賞者を選び、その中から名もなき英雄賞が選ばれます。ニュースの中のオードリー・リヴィングストンはトライアスロンにおける功績が讃えられ、2020年にBBCロンドンより選出されました。

トライアスロンとは、水泳、自転車ロードレース、長距離走を1人で行う耐久競技です。イギリスでは1983年にレディングで初めてレースが行われて以来競技人口が年々増加しており、2019年には15万人に達しました。トライアスロン・イングランド (Triathlon England)、トライアスロン・スコットランド (Triathlon Scotland)、ウェルシュ・トライアスロン (Welsh Triathlon) の会員の合計は2009年からの10年間で3倍となり、2019年には3万3,000人が会員登録をしています。

トライアスロンへの参加者の数が年々増加するにつれ、女性の参加者もイギリスでは2013年の26%から、2019年には32%へと徐々に増えています。しかし、トライアスロンの競技人口における黒人、アジア人などのマイノリティの割合はわずか2%に留まっています。リヴィングストンが2006年にトライアスロンを始めた当初はまだ競技者に白人男性が多い時代でしたが、ここ数年で少しずつ多様化が進みつつあります。イギリスにおける黒人やアジア人女性の中には、水泳やスポーツへの参加に障壁を感じている人が数多くいますが、そのようなマイノリティの女性が水泳に参加する手助けをするべく、リヴィングストンは2020年にソウル・スイマーズUK (Soul Swimmers UK) を立ち上げました。また、2020年10月の黒人歴史月間 (Black History Month) にはトライアスロンと人種について語るなど、トライアスロンにおける多様性を目指して積極的に活動を行っています。

参考：

<https://www.bbc.co.uk/programmes/b00grqnh>

<https://www.britishtriathlon.org>

5 Filling Gaps

News Story

CD1-02 [Original] CD1-03 [Voiced]

► Watch the news, then fill the gaps in the text.

Newsreader: Next weekend the BBC will reflect on a sporting year like no other, at the BBC Sports Personality Awards (1). Among those being (2) are unsung heroes from every part of the UK, including one woman from the capital who's worked tirelessly to encourage more people into the sports of triathlon and swimming. Chris Slegg has her story.



5

Chris Slegg: Audrey Livingston didn't take up triathlon until she was (3) (4) (5). She loved it so much, she gave up her job in advertising, and (6) as a coach.

10

Audrey Livingston: Keeping that back leg straight ...

Slegg: She has since (7) dozens of people at Crystal Palace Triathlon Club, and Windrush Triathlon Club, to get (8) in the sport.

Livingston: When I was in advertising sales, the reward was you get a (9) at the end of the month, like "Yay!" Um, whereas my reward isn't money. You can't (10) it, it's people, saying, "Oh my god, I'm feeling so much better!", or "Oh god, I've lost so much (11)!"

15

First woman: I've known Audrey for nearly 10 years. Audrey has been my personal coach, and she has helped me (12) my goals.

20

Livingston: Go ...

Slegg: Audrey has also set up Soul Swimmers, to try to (13) more black women to try swimming.

Second woman: She is one of those people, she's just hands-on, she just does it.

Man: Audrey came up with a brilliant idea of (14) training during the pandemic, where she coaches a group of people (15) over an audio link, and gives you instructions over headphones.

25

Slegg: We hadn't told Audrey why we were (16) until ...

Third woman: Have you heard of something called the BBC Unsung Hero Award?

Livingston: Yeah.

Third woman: Ok, how would you feel if I told you that you'd won?



30

Livingston: No! ... Have I? ... No! Oh ... Wow!

Fourth woman: Audrey thoroughly deserves this award. Congratulations, Audrey!

Fifth woman: Thanks Audrey, for being such an (17) to the young people of South London.

Livingston: Thank you, London.

Slegg: Audrey Livingston – a true sporting (18 London.



35

40

) hero. Chris Slegg, BBC

(Monday 14 December 2020)



Notes

1.3 **the BBC Sports Personality (of the Year) Awards** 「BBC スポーツ・パーソナリティ (オブ・ザ・イヤー) 賞」 イギリス国内における全スポーツの最優秀選手に贈られる賞。一般の投票によって選ばれる。1954年より、毎年12月に授与されている 1.13 **Crystal Palace Triathlon Club** 「クリスタル・パレス・トライアスロン・クラブ」 ロンドン南東部クリスタル・パレスにあるトライアスロン・クラブ。1993年創設 1.14 **Windrush Triathlon Club** 「ウインドラッシュ・トライアスロン・クラブ」 ロンドン南東部ブリクストンにあるトライアスロン・クラブ。2008年創設 1.31 **the BBC (Sports) Unsung Hero Award** 「BBC (スポーツ) 名もなき英雄賞」

様々な混合競技

「トライアスロン (triathlon)」は、ギリシャ語で「3」を表す接頭辞 tri-と、「競技」を表す athlon とを組み合わせたもので、水泳、自転車ロードレース、長距離走の3種目を行うことからこのように呼ばれています。スポーツ界には、他にも数を表す接頭辞を語源に持つ様々な競技があります。「バイアスロン (biathlon)」はラテン語で「2」を表す bi-と athlon を組み合わせた競技で、クロスカントリースキーとライフル射撃の2種目を行います。4つの種目を合わせた「クアドラスロン (quadrathlon)」では水泳、自転車ロードレース、カヤック、長距離走を行い、5種目の「ペンタスロン (pentathlon)」では射撃、水泳、フェンシング、馬術、長距離走を行います。10種の「デカスロン (decathlon)」、20種の「アイコサスロン (icosathlon)」などもあり、どれも1人のアスリートが複数の種目で競い合う混成競技です。

Moving On

6 Making a Summary

CD1-04

▶ Fill the gaps to complete the summary.

One of the annual BBC Sports Personality Awards is the (U) Hero Award, for people who have done a great job for sport without financial reward or even much recognition. The Award for 2020 was given to Audrey Livingston, from London, for working (t) to encourage people into triathlon and swimming. In her forties, she gave up her job in advertising sales because the only reward was money, and (q) as a coach, where she is rewarded by people expressing their feelings, which cannot be (m). She has (i) dozens of people to get involved in triathlons and has also encouraged more black women to try swimming. During the pandemic she coached people (r) over an audio link, giving instructions over headphones. She helped people to (a) their goals and people thought she thoroughly deserved her award because she was an (i) to the people of South London.

7 Follow Up

▶ Discuss, write or present.

1. Think about why Audrey changed her job. Money wasn't important for her. Would you have felt the same way if you were her?
2. During the pandemic, Audrey started coaching people remotely, without actually seeing them. Would you like to be coached in that way? Would you be motivated?
3. Is there a similar award in Japan? Do you know of anybody who might deserve such an award?